

第1回 世田谷区地域経済の持続可能な発展を目指す会議議事録

日時：令和7年5月22日（木） 18時30分～20時00分

場所：世田谷区役所三軒茶屋分庁舎3階 大小会議室

■ 出席者

〈委員〉

長山会長、宮井副会長、古谷委員、栗山委員、阿部委員、見城委員、
藤間委員、児玉委員、市川委員、伊地知委員、宮本委員、
中山委員、吉田委員、森原委員、徳元委員

〈世田谷区〉

五十嵐経済産業部長、石川商業課長、
北経済課長、佐藤工業・建設業・雇用促進課長、
梅原都市農業課長、小渕消費生活課長

1. 開会

【北経済課長】

それでは定刻になりましたので、只今より第1回地域経済の持続可能な発展を目指す会議を開催いたします。皆様、本日は大変お忙しい中、ご参加いただき、誠にありがとうございます。私は、世田谷区経済課の北と申します。本日の議題2「会長及び副会長の選任」までの間、進行を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

本会議は、条例に基づき17名の委員により構成されております。本日は全体の2分の1以上の委員にご出席をいただいておりますので、世田谷区地域経済の持続可能な発展を目指す会議規則第5条の規定に基づき、会議を開催させていただきます。

なお、本日は、中村委員、吉岡委員について、あらかじめご欠席の旨ご連絡をいただいております。本日の出席委員は全部で15名となっております。続きまして、委員の委嘱でございますが、各委員の皆様の机の上に委嘱状を置かせていただいております。こちらをもって委嘱とさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

また、配付資料でございますが、次第の下に記載しておりますので、こちらに沿いまして、ご確認いただきますようお願いいたします。不足がございましたら、事務局までお申し付けください。

2. 各委員及び出席者紹介

【北経済課長】

続きまして、議題1「委員紹介」に移らせていただきます。資料1「世田谷区地域経済の持続可能な発展を目指す会議」委員名簿」の順にご紹介申し上げます。

学識経験者として、駒澤大学経済学部教授 長山宗広委員、

東京商工会議所世田谷支部より、古谷真一郎委員
世田谷区商店街連合会より、栗山和久委員
世田谷工業振興協会より、中村大路委員
世田谷区農業青壮年連絡協議会より、吉岡秀樹委員
世田谷区産業振興公社より、阿部辰男委員
世田谷区消費者団体より、見城佐知子委員
世田谷区しんきん協議会より、宮井克明委員
東京青年会議所世田谷区委員会より、藤間崇史委員
世田谷区建設団体防災協議会より、兒玉奈輔委員

次に、民間団体・NPO等として、
非営利型株式会社Polaris ファウンダー・合同会社メーヴェ代表社員
市川望美委員
Creww 株式会社代表取締役 伊地知天委員
Tanoba 合同会社代表社員 宮本義隆委員
フリーランス協会 理事兼事務局長 中山綾子委員
三茶ワークカンパニー株式会社代表取締役 吉田亮介委員

次に区民公募から

森原正希委員
徳元新樹委員

以上17名の皆様による委員の構成となっております。
皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

3. 会長及び副会長の選任

【北経済課長】

それでは、議題2「会長及び副会長の選任」に移らせていただきます。
参考2「世田谷区地域経済の持続可能な発展を目指す会議規則」をご覧ください。規則の第3条に、会長及び副会長に関する規定がございまして、会長・副会長は委員の互選によることと規定されておりますが、まず、会長につきまして、どなたか自薦他薦ございましたらお願いいたします。いかがでしょうか。

では、大変恐縮ではございますが、事務局からの提案ということで、前期までの世田谷区地域経済の持続可能な発展を目指す会議でも会長を務めていただきました駒澤大学の長山委員に会長をお引き受けいただきたいと存じますが、いかがでしょうか。

《一同拍手》

ありがとうございます。それでは、長山委員に会長をお願いいたしまして、只今より、会長席にお移りいただきます。

それでは引き続き、副会長の選出を行います。規則の第3条により、副会長につきましても委員の互選によることと規定されておりますが、どなたか自薦他薦ございましたらお願いいたします。いかがでしょうか。

大変恐縮ではございますが、事務局からの提案ということで、世田谷区しんきん協議会の宮井委員に副会長をお引き受けいただきたいと存じますが、いかがでしょうか。

《一同拍手》

ありがとうございます。それでは、宮井委員に副会長をお願いいたしたいと思えます。宮井委員よろしくお願いいたします。なお、副会長のお席につきましては、本日はこのままで進行させていただければと思えます。それでは、今後の議題につきましては、会長に進行をお願いしたいと思えます。会長、よろしくお願いいたします。

4. 議事

【長山会長】

それでは、議事を進めたいと思います。まず議題3として、地域経済の持続可能な発展を目指す会議について、事務局より説明をお願いいたします。

【北経済課長】

資料2と資料3は、密接に関係する資料のため、通してご説明をさせていただきます。まず、資料2をご覧ください。

地域経済の持続可能な発展を目指す会議の根本の説明をさせていただきます。

大きな項目の1として、本会議の位置づけです。令和4年4月に世田谷区地域経済の持続可能な発展条例を制定いたしました。本条例において、四つの基本的方針というものを定めております。資料に記載のとおり、一つ目が多様な地域産業の基盤強化、二つ目が起業の促進及び多様な働き方の実現、三つ目が地域や社会の課題解決に向けたソーシャルビジネスの推進、四つ目が持続可能な事業活動及びエシカル消費の推進となっております。これらに基づいて、地域の経済発展と地域や社会の課題解決を両立させた持続可能な国民生活の実現を目指すこととしております。本会議は、本条例に基づく区長の付属機関として、先で述べた四つの基本的方針等を踏まえた持続可能な発展に関する施策を推進するため、発展に関わる指針等を調査、審議することを目的に組織されております。

続いては、本会議の議論の方向性です。お手元にございます、令和6年3月に策定いたしました「世田谷区地域経済発展ビジョン」の全体の大きな方向性、そして、後ほどご説明をさせていただく「地域経済の持続可能な発展を目指す会議検証部会」、こちらの部会で議論された内容を確認・検討するという位置づけです。なお、部会においては、「世田谷区地域経済発展ビジョン」の別冊となります「ロジックモデル」を用いて検証するということを考えております。

三つ目に、スケジュールです。資料に記載のとおり、年3回の実施を予定しております。第1回が本日となります。そして、第2回については、今年の秋ごろ、部会で議論された内容を確認・検討いたします。第3回においては、年明け、本会議の取りまとめ、として実施を予定しています。大きな項目の4として、令和13年度までのスケジュールとなります。令和7年度については、主にロジックモデルを用いて検証を実施していくということを考えています。令和8年度に関しましては、必要に応じてロジックモデルを検証しつつ、翌年度の令和9年度が地域経済発展ビジョンの中間の評価年度に

当たっているため、9年度に向けて、各施策を再整理していくということを考えております。令和9年度は、ビジョンの中間年度のため、ソーシャルインパクト指標、実績値などを評価して、施策も再整理をしていければと考えております。令和10、11年度の両年度については、ビジョンの最終年度である13年度に向けて、施策を再整理していく期間となります。令和12年度については、全事業所向けに、世田谷区にて産業基礎調査を実施する予定です。こちらの調査を踏まえ、14年度以降のビジョンの策定会議を発足させるような形になろうかと考えています。そして、ビジョンの最終年度である13年度において、ソーシャルインパクト指標などの実績値を評価いたしまして、14年度以降のビジョンを策定していくものと考えております。その他といたしまして、ロジックモデルとありますが、こちらは資料4にてご説明いたします。

次に資料3をご覧ください。地域経済の持続可能な発展を目指す会議検証部会についてご説明させていただきます。

この部会の構成は、先ほどご説明した条例に基づく4つの基本的方針、多様な地域産業の基盤強化、起業の促進及び多様な働き方の実現、地域や社会の課題解決に向けたソーシャルビジネスの推進、そして持続可能な事業活動及びエシカル消費の推進の4つの視点に分類しようと考えております。

そして、基本的方針の1の「多様な地域産業の基盤強化」については、この各部会の構成という表をご覧くださいなのですが、区内産業の活性化、産業の引継ぎの視点から議論をいただきたいと思います。そして、基本的方針の2の起業の促進及び多様な働き方の実現については、全ての委員に関わりがあると考えておりますので、表に記載されているとおり、基本的方針2-1、基本方針的方針2-2のように、産業団体の視点と事業者視点の両面から分けて議論いただきたいと思いますと考えております。そのため、資料の表のとおり、基本的方針2-1、2-2については、割り振っているところがございます。また、基本的方針3及び基本的方針4についても、同様に資料の表のとおり割り振っているところがございます。区民のお二人については、特にどの項目にも該当するというものがございませんので、どの項目にご参加いただいても、もちろん全てでも構いませんので、後ほど個別にご相談させていただきます。表に記載されているとおり、基本的方針2-1と基本的方針2-2において、二つに分けて、部会を開催したいと考えております。

そして、大きな項目である「2. 今年度のスケジュール」について、今年度の10月頃に第2回地域経済の持続可能な発展を目指す会議を予定しており、それまでに各部会を1回ないし2回ほど開催したいと考えております。

そして、11月以降、必要に応じて、部会を開催したいと考えております。各部会の開催日程や実施回数は、それぞれの部会で決めていただければというふうに考えております。資料の2と3については以上となります。会長にお返しいたします。

【長山会長】

只今の事務局の説明について、ご意見やご質問などがありますでしょうか。

それでは、参考2「世田谷区地域経済の持続可能な発展を目指す会議規則」をご覧ください。第6条3に「部会に部会長を置き、会長の指名する委員をもって充てる」と規定されておりますので、私より部会長を指名させていただきます。東京商工会議所世田谷支部の古谷委員、民間団体・NPO等から吉田委員にお願いできればと思います。古谷委員には基本的方針1と基本的方針2-1の部会長を、吉田委員には基本的方針2-2と基本的方針3・4の部会長をお願いできればと思います。

続いて、議題5「地域経済発展ビジョン（別冊）「ロジックモデル」と「ソーシャルインパクト指標」について」に入ってまいりたいと思います。事務局より説明をお願いいたします。

【北経済課長】

それでは、資料4、世田谷区地域経済発展ビジョン（別冊）「ロジックモデル」と「ソーシャルインパクト指標」について、ご説明をさせていただきます。

1ページをご覧ください。概略にも記載のとおり、本資料は、「世田谷区地域経済発展ビジョン」の「目指す姿」ごとに、その実現に向けた道筋を「ロジックモデル」として整理するとともに、指標を設定し、産業分野や地域経済への影響・波及を捉え、政策全体の達成状況を測定・評価することで見える化するものです。ロジックモデルとは、ソーシャルインパクト指標を導き出すための枠組みです。この枠組みに、各ソーシャルインパクト指標を、当てはめ、いかに目指す姿に近づいているかということを検証することとなります。

ソーシャルインパクト指標は、大きく分けて三つ設定しています。まず一つ目の指標として、目指す姿に近づくためのきっかけとなる取り組みとして、それぞれ行動指標を設定しています。二つ目に、各行動指標がもたらす影響としまして、短期アウトカム指標というものを設定しています。最後に三つ目として、この短期アウトカム指標を集合体として捉えると、どのような影

響があるかという指標として中長期アウトカム指標というものを設定しています。

一例として、10ページを用いて、ご説明させていただきます。こちらは、目指す姿10、地域経済の活性化や賑わいが生み出される世田谷区というテーマで考えられたロジックモデルとなります。表中の青字は、令和5年度の実績値を100として、それと比較しての変化を示しています。増加は青字で、減少は赤字で記載をしています。表中、一部数字が入っていない指標があると思います。こちらは、国の統計である経済センサスなどの数字であり、まだ公表に至っていないので、お示しできていないものになります。中長期アウトカム指標について、本来はビジョンの中間目標値を測定する令和9年度、あるいは最終目標値を測定する13年度で、比較する数字となりますが、記載できる数字はすべて埋めた方が良くと考え、参考に記載をしております。目指す姿は、濃い赤い色のボックス内に記載されているとおり、「地域経済の活性化や賑わいが生み出される世田谷区」となります。他方、ロジックモデルの一番左側、薄い青色のボックスに記載されているとおり、注目する対象として、区民、来街者を設定しております。その右側は、主な課題と現状となります。上段では、継続的な消費の喚起、下段では、域外からの来街者の誘引と消費へのつながりが不足というふうに設定しています。次に、きっかけとなる変化の取り組みとして、上段では、せたがやPayによる域内消費活性化の実施と設定しています。付随して、行動指標を二つ設定しています。一つがせたがやPay事業の加盟点数、二つがせたがやPayの利用者数というふうに設定しています。これらの指標は青字で記載しておりますので、増加を意味しております。次に、これらの行動指標がどのような影響をもたらしたかを示すのが短期アウトカムとなります。二つの短期アウトカムが設定されており、一つがせたがやPayの決済回数、二つがせたがやPayアプリ利用者の継続利用率となります。いずれも増加しております。最後に中長期アウトカムとなります。二つの中長期アウトカムが設定されており、一つが世田谷Payの利用額、二つが域内消費額となっております。域内消費額はまだ公表されていない数値となりますが、世田谷Payの利用額については、増加しております。下段の域外からの来街者の誘引と消費へのつながりが不足についても同様に、行動指標として、まちなか観光交流協会会員数の増加と設定しており、短期アウトカムとして、まちなか観光交流協会の活動回数と設定しており、中長期アウトカムとして、地域外からの来街者数と観光消費額を設定しております。これらの数字については、先で述べた域内消費額と同様に、まだ公表されていない数値となりますので、記載がされていないところ

このようなロジックモデルが11個ございます。11個のロジックモデルの中長期アウトカムの中長期アウトカムの平均値が1ページに記載されている「中間目標値」及び「最終目標値」の算出要素となります。基本の方針1と2-1に該当する部会では、目指す姿の1から7までのロジックモデルを、基本の方針2-2及び3と4に該当する部会では、目指す姿5から11のロジックモデルを検証してほしいと考えております。ロジックモデルについては、定性的な側面から検証をするというふうなものになっておりますが、必要に応じて、参考6「アクションプラン」も用いて、定量的な側面から検証できればと考えております。ロジックモデルについては、以上となります。会長にお戻します

【長山会長】

ただいまの事務局の説明について、ご意見やご質問などがありますでしょうか。

前回までの発展会議では、発展ビジョンやアクションプランの行動指標を中心としていたため、それがどのような形に変化をしていくのかといった、短期・中長期アウトカムまでを考えていこうということでした。ただ、ここにはロジックである以上、何らかの因果関係が必要です。しかしながら、この因果関係の証明はできてないままの状態になっています。

とは言いましても、ほとんどの自治体では、計画は作っていますが、その計画はまさにこの行動指標のみで、イベントの回数といったものを羅列しているものが多いです。

そういった面では、世田谷区は革新的にチャレンジをしようとしています。今後は部会で、集中的に議論していただくということになっております。

事務局からの説明について、お一人ずつご意見やご質問などお願いできればと思います。

【徳元委員】

アクションプラン自体は前期会議で決まり、それを継続しているという理解でよろしいでしょうか。部会の中でアクションプラン自体を変えたり追加していくというような議論にはなりませんでしょうか。

【北課長】

アクションプランそのものに関しては、本日皆様の机の上に配布させていただいている世田谷区地域経済発展ビジョンに示させていただいているものなので、これを大きく変えていくことは難しい所です。ただ、この量的な評価が正しいのか、施策が効果を与えているものかという議論はもちろんしていただきたいと考えています。

【森原委員】

先ほど会長がおっしゃられた通り、他の自治体では見ないような、ソーシャルインパクトの指標かつ、これを検証していこうという姿勢に対して、私自身はすごく勇気をもらいました。このような自治体が増えていくといいなと思っております。因果関係の不透明さであったり、難しさだったりがあると思います。これ自体が本当に定量・定性的に実質的なユーザー自体が変わっていったのかとか、行動が変わっているのかというところは、詳細のアンケートを見ていくことや、細かく複雑なものを統合していくような作業が必要なんだろうと感じています。ただ、今後、この検証データを用いて、議論が深まっていく、改善点が見えていく、柔軟にアジャイル的に変えていくことが今後期待されると思っております。私も様々ご意見等できたらなと思っております。よろしくお願いします。

【吉田委員】

部会をどのように時間を使えば、有意義になるのかイメージしながらお話を伺っています。さっきお話を聞いた限り、これらの指標は完璧ではないという前提を持ちながらも、指標があると物差しとして考えやすくなるのだと理解しています。ここで、部会で今後どのような議論できると、全体にとってプラスになるのかをお伺いできればと思います。

【北課長】

結局、このロジックモデルにおいて、行動指標は何をどれくらいやったかということがきっかけになり、アウトカムはそれがどのような影響をもたらすかを示しています。このモデルを作成した時点で当てはめたものであるのも、もしかしたらより適切なアウトカム指標が当てはまるのではないかという意見も出てくるかもしれません。また、このロジックモデルを検証する中で、短期アウトカムが実際には行動指標であるといった発見もあるかもしれないと考えています。そのため、この点に関しても柔軟に皆さんのアイデアを出していただき、ご議論いただければと思います。

【吉田委員】

ありがとうございます。

そういうイメージであれば、私たちも区内で事業を行ったり、さまざまな方とコミュニケーションを取る中で、感じている感覚をみんなで持ち寄りながら、指標がその感覚に合っているかどうか、またその関連の話を進めていくことが大切です。指標をブラッシュアップすることや、施策についても「感覚ではこういうものがあるが、どうだろうか」といった議論ができると良いと思います。

【中山委員】

感想になってしまいますが、非常に壮大なビジョンの中で、それを定量的に評価していく仕組みが、この期間でできていたことに驚いています。このように評価を進めていく方針が確立されているのだと理解いたしました。

しかし、行動指標の中で、部会として関わるとどうしたら数字を向上させていけるかといった意見を出しやすいのではと、顔ぶれを見ながら思いました。部会の役割としては、評価や検討を進めていく立ち位置なのだと思いますので、今後部会で一緒させていただく皆さんと、どのような議論ができるかを非常に楽しみにしております。ありがとうございます。

【宮本委員】

委員の皆さんが話されたことで、私の疑問もほぼ解消されたので、感想をお伝えさせていただきます。資料を拝見し、民間企業の活動計画書のような資料のように感じましたが、個人的な経験から言うと、こういったものは金科玉条にしない方が良いのではないかと思います。

方向性を変えるという話になると、元の話からずれてしまうのでよくありませんが、細かなディテールやニュアンスの部分は柔軟に変えていく姿勢を部会の中で持つことで、より実践的な打ち出し方やアクションができるのではないかと考えています。そのような貢献ができるといいなと思います。以上です。

【伊地知委員】

私は行政が効果検証をしっかり行い、KPIを立てているのを初めて見たので、非常に素晴らしいと感じています。おそらく皆さんがすでにおっしゃっていることかと思いますが、アクションプランについて、つまりこの施策の一つ一つに追加や変更を加えることが可能なのかという点が気になっています。

我々のミッションとして、評価を正しく行うのか、次回に繋げるような目的が一番強いのか、目標値に届かせるためのアイデアを出し合い、実行に移すことまでを期待されているのか、どちらなのでしょう。

【北課長】

あくまで評価を行っていただきたいと思っております。評価を行っている以上、もちろんその範囲まで及ぶのかもしれませんが、さらに良くするためにはどうするのか、ということではなく、こういうような評価指標あるいはアウトカムがより適切な評価に繋がるという視点です。

【伊地知委員】

先ほどのロジックモデルの話はだいたい理解できました。現状値として令和5年の数値をポイント100とし、令和9年に130を目指すという指標の目標値はどこから来ているのか気になりました。ここに何か記載されてい

るのでしょうか。

【北課長】

これが確たる指標だというものがあるわけではなく、ある意味主観で定めたものになります。

【伊地知委員】

進めながら勉強させていただきます。ありがとうございました。

【市川委員】

このビジョンは、最終的に世田谷のウェルビーイングにつながるものであり、持続可能な経済循環で実現されるものです。これが各政策の評価とどのように関連しているかを理解した上での発言ですが、最終的に区民だけでなく事業者も含めて世田谷のウェルビーイングにどう繋がっていくかをどのように言語化なり可視化できるだろうかと考えています。達成できたからといってウェルビーイングが高まるとは限りません。ロジックモデルは対話のベースになるものであり、今までのこの会議の中でもこれをいかに浸透させていくか、これを基に対応していくのかを大事にしていくべきだという意見もありました。

区の政策を評価しながらも、不足する部分は何か、どう読み解けるかについて広く区民と対話する必要があります。部会だけでなく、皆で「世田谷のウェルビーイングはこうだ」と意識が浸透する場が重要だと思います。

さらに、中長期的な取り組みについては、区の施策だけでは実現できないものが多くあるはずです。読み解いていく過程の中で何が不足しているのか、どのようなリソースがあれば実現できるのかということが導き出されたり、民間の取組みであったり大学の授業のような異なるレイヤーの中で、区の政策の中だけでない部分をどのように一緒に考えていくかも重要だと考えています。協働相手が増えることや、これの理解を区民や事業者とともにしていくことが望ましいと感じました。こういったことが実際にアクションプランとして落とし込まれてきたことは出発点として素晴らしいと評価し、これを皆さんと丁寧に読み解いていきたいと思います。

【兒玉委員】

市川委員と重なる部分が多いですが、昨年まで会議に参加し議論してきて、さまざまな行動指数について自分なりに理解ができるようになってきました。ただ、このビジョンができて、私たちの建設業界の中で広まっているかという、そうはなっていないのが現状です。

部会の中で議論することにプラスして、この業界団体や区ができる範囲には限りがあるため、民間企業や消費者である区民に対して、この区が発展ビジョンの中で思い描いているものや実施したいことをより理解してもらう

ことも必要です。それがイベントやその他の手段であることは当然考えられます。こういった理解してもらう仲間を増やしていくことについても、部会や会議体でさらに議論を深めていければと思います。

【藤間委員】

私は普段、特定の事業を行っている会社、例えば IPO をしたりするようなところを支援することが多いのですが、これだけの幅広い施策の内容をこの粒度で行うのはかなり大変だろうと率直に感じています。部会で重要だと考えていることは、やはりビジョンに立ち返ることです。常にこのビジョンとの関係でアウトカムが適切かどうか、最適性を持っているかという観点から闊達に意見を交わすことで、最終的に結論を出す段階ではビジョンとの関係が明確になるのではないかと思います。私も常にビジョンを意識して議論できるようにしたいと考えております。

【宮井委員】

私は金融の分野を専門にしていますので、いろいろと気に留めて見ていますが、素晴らしい政策が世田谷区で行われていることを感じています。しかし、事業者の方々に分かりやすく伝えることは重要だと考えました。また、知らない事業者も意外と多く、その PR の方法や広め方についても考慮する必要があると感じています。

【見城委員】

改めて、これだけのページ数の小さい文字で書かれたものを見ると、すごく壮大だと思います。私も最初に見たとき、長山会長がおっしゃった通り、アクションプランと行動指標の部分でどういうふうに進めるかが課題であると感じました。しかし、分解されて行動指標が取り上げられることで、今後どういうふう zu 足りない部分があるのかという議論につながるのだろ う と思います。一つひとつを読み解きながら、皆さんと意見交換をし、変化すべきところは変化させていければいいなと思っています。

ただ、自分の専門外の部分については、やはり読み解くのが難しいと感じるので、その際はこの会議で持ち寄ればいいかなとも思っています。

【阿部委員】

私は公社の立場なので、行動する主体にあたり、自らを検証する状況にあります。ただ、私たちもこのビジョンをきっかけに、今後中長期的にどのような取り組みを進めるべきかを改めて社内で検討し、議論していかなければなりません。この会議での検証を通じて、自らがどのように変わっていけるのか、またその効果を充実させるための視点につなげたいと考えています。どちらかという と、皆さんの知恵をいただきながら検証を進めていきたい と思いますので、よろしくお願いします。

【栗山委員】

商店街栗山です。まだよくわかっていないのですが、会議の目的がどの辺にあるのかを理解しなければならないと思っています。資料にも記載がありますが、今回の位置付けとして、この会議の目的は持続可能な発展に関する施策を調査審議することと書かれています。その部分をまず理解しなければならないと思っています。さらに、今回の議論の方向性についてですが、検証部会で確認・検討することが書かれています。こうした位置づけでよろしいでしょうか。

【北課長】

確認・検討というのは、部会で議論された内容をこの発展会議で確認・検討するという意味でございます。

【栗山委員】

分かりました。資料2の4にスケジュールが記載されていますが、令和7年度が現在で、進められていくと思います。この会議が令和13年度まで続いていくということでしょうか。

【北課長】

机上に委嘱状を置かせていただいておりますが、皆様はそちらに記載の2年間の任期というかたちになっております。2年間の任期の後もこの会議は続きます。委員の改選を経て、続いていきます。改選でどのくらいの割合で人が入れ替わるかというのはこれからの話になります。

【栗山委員】

最終的にはこの施策が良かったのか悪かったのかを最後に判断して、次にまた繋げていく、という大まかな流れで考えてよろしいでしょうか。

【北課長】

その通りでございます。

【古谷委員】

昨年に、世田谷区地域経済発展ビジョンが形になりました。現状の課題から目指すべき方向性が定まり、各分野に分かれてこうあるべきだとか、それに向けてこうしていこうという内容が2年かけてこの冊子にまとまりました。

それが進んでいく中で、どう目指すべき方向性に合致しているのかどうかを検証する2年だと思っています。そのため、進め方については特に反対意見はありません。皆さんの理解がどの程度かはわかりませんが、2年間かけて一生懸命ビジョンにまとめてきたのです。

大切なのは、この別冊でまとめられた内容であり、これは区として取り組むべき具体的な内容や事業が記されています。大前提として、行政がやるべ

きこと、行政にしかできないことをここに示すべきだと思います。民間ができることは民間がすればいいと思っています。何でも区に頼るというスタンスはあまり好ましくありません。そのため、行政の役割と民間が経済活動を行う目的を考えると、民間ができることを区は行う必要がないと考えています。

我々ができないことは、私たちが税金を払って行政に頼んでいるのです。ここで重要なのは、施策をやりました、たくさん人が来ましたという定量的問題ではなく、具体的な成果があったかどうかを検証することです。例えば、お店で多くの客が来たとしても、実際に一人しか購入しなかったし単価の安いものでしたというのでは意味がありません。多くの集客ができ、その結果として具体的な事業所への支援ができたとか、世田谷区の特定の分野の業態が成長したなどの結果が必要です。単に SNS に人が集まったというだけでは意味がなく、SNS を通じて問い合わせがこれだけ増えたとか、こういう申請が増えたといったところに踏み込んで、ニーズがあるのかないのかをジャッジしなければいけません。

何人かの方が指摘されていましたが、頑なに守る必要はないと思います。数か月進めていて全く意味がないと思えば、やめてもいいと思います。民間は一生懸命に仕事をしてもお金にならないければ潰れますので、利益にならないものを続けていても意味がありません。したがって、数字だけを追うのではなく、それが実際に必要かどうかを調査し評価することがこの2年間の重要な役割だと考えています。必要のないものはためらわずに停止する権利もあると思います。そのためには、しっかりとエビデンスを揃え、本当のニーズを把握しなければならないと思います。ニーズとウォンツは異なることを理解し、それぞれの部会で調査研究を進め、提案していくことが求められると感じています。

私も前回の会議でも言いましたが、自分たちが作ったビジョンについてのあるべき姿は示したはずだし、そこに向けて進もうとした結果、もし結果的に間違っていたとしても、その時点では正しいと考えられるビジョンを作成しました。それは昨年までの関係者の責任であり正しく検証していくことが必要だと考えています。進めていく中で多少これ違うのではないか、というものがあってもそれも受け入れる会議であるべきだと思います。以上です。

【長山会長】

ありがとうございました。様々なご意見が出ましたが、次回は部会ということになります。部会長の立場となると、部会でどのような成果やアウトプットを求められているのかが明確でないと議論をするのが難しくなってし

まうと思います。改めてこの部会で何を求められているのかということを確認に事務局からお話しいたしますが、よろしいでしょうか。

【北課長】

古谷委員からもお話があったと思いますが、この会議体は4月からの2年間ということです。ただ先ほど資料にあった通り、これは13年度までの長いスケジュールが書かれています。どうしても、このビジョンの検証は9年度に中間評価を行い、13年度には果たしてどうなっているかと、長いスパンで検証していくものになっています。

したがって、7年度、それから次の8年度だけで全てを検証できるという形では事務局の方では考えていません。今年度の目標については、ロジックモデルの中間目標が令和9年度に設定されています。この中間目標で中間評価を行います、その評価の検証に耐えられるかどうか、ロジックモデルの枠組みがきちんと作られるかという点について、部会の皆さんに方向性を検証していただきたいと考えています。以上です。

【長山会長】

この部会を進めるのは難しいことだと思っています。こちらのビジョンについて、前期の会議では、方向性、目指す姿や取組みに関しては議論がしっかり行われたのではないかと考えています。

ページ数で言うと、31ページまでの内容についてはしっかり議論できたと思います。しかし、私も同様に感じているのですが、32ページ以降、いわゆるアクションプランの事業や施策名、事業内容の部分については、十分に理解している委員は少ないのではないかと思います。ここを完全に把握していないと、次のステップには進めないため、まずはこの事業の施策名と事業内容を理解した上で議論してもらいたいと考えています。

この行動指標については、このロジックモデルにすべて入っているという認識でいいのでしょうか。それが示されているのであれば、行動指標を理解した上で、目指す姿を意識しながら短期アウトカムと中長期アウトカムの議論を進めていくことが重要だと思います。

先ほど、中長期アウトカムは短期アウトカムがいくつもあって、それをパッケージ化して、中長期アウトカムになるという話があったかと思います。しかしながら、ものによっては短期のアウトカムが少なく、中長期のアウトカムの方が多いこともあります。そういったところを部会で考えてもらいます。

結果的に、目指す姿に向けて、行動指標だけでなく、具体的に評価するための数値について考えてもらいながら、事業の是非も考えてもらうということです。

せっかく 2 年の任期があるので、検証に偏ってしまうと、メンバーの力を十分に発揮できないのではないかという印象を持ちます。事務局とも話し合った結果、施策提言を積極的にクリエイティブに考えていくことが重要だと思っています。

だからこそ、集まったメンバーがもったいないと感じることのないよう、第 3 回発展会議の際にはそういった施策提言を前向きに出してもらいたいと思っています。施策や事業内容というところも追加で、このような事業があったらいいのではないかというような提言ということです。

多くの事業がありますので、網羅的に確認し検証を進めて、スクラップアンドビルドの視点を持ちながら、事業はどんどん進めていくべきだと考えています。今後の部会の進行はすべて部会長にお任せします。

何か言いたい方がいれば挙手をお願いしたいです。

【長山会長】

それでは、皆様、活発なご意見やご指摘をいただき、ありがとうございます。そろそろ終了のお時間が近づいてまいりましたので、本日いただきました様々なご意見やご指摘などを踏まえまして、次回以降に向けて事務局にて整理をしてもらえればと思います。

最後に、事務局より連絡事項がありましたら、お願いいたします。

【北課長】

それでは、事務局より事務連絡を申し上げます。

まず、本日の会議録については、事務局にて作成の上、後日、皆様に確認をお願いしたいと思います。その上で、準備が整い次第、HP へも掲載をさせていただきます。予定ですのでご了承ください。

次回の開催予定ですが、先ほどご説明したとおり、来る 6 月～10 月にかけて、部会を開催します。

出来るだけ早い段階で日程の確定をしたいと思いますので、御協力のほどをよろしくお願いします。

事務局からは、以上でございます。

4. 閉会

【長山会長】

ありがとうございます。

それでは、第 1 回地域経済の持続可能な発展を目指す会議はこれにて終了いたします。本日は、長時間ありがとうございました。